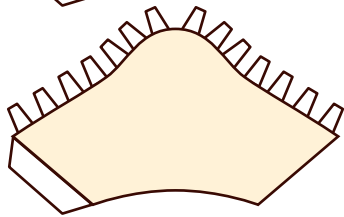
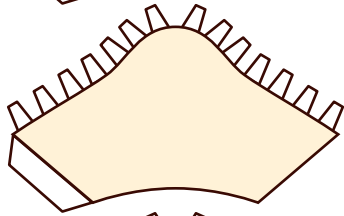
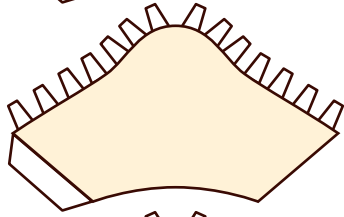
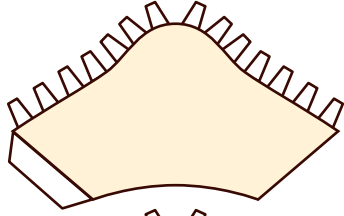


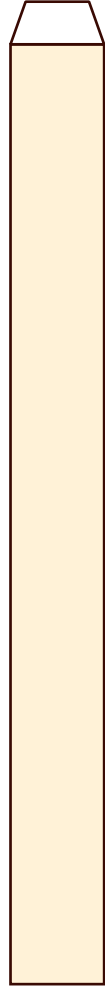


# 万世の蚊やりふた

やまお  
山折り -----  
たにお  
谷折り -----

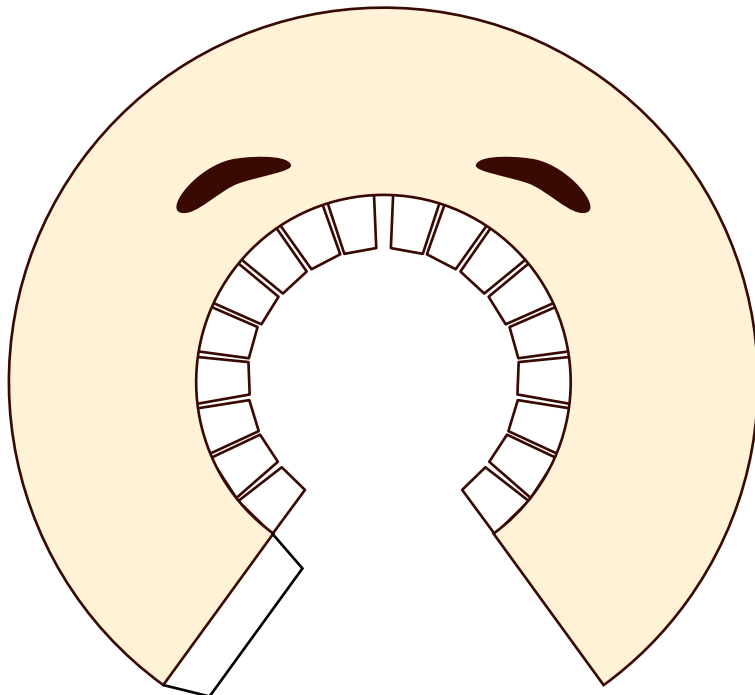
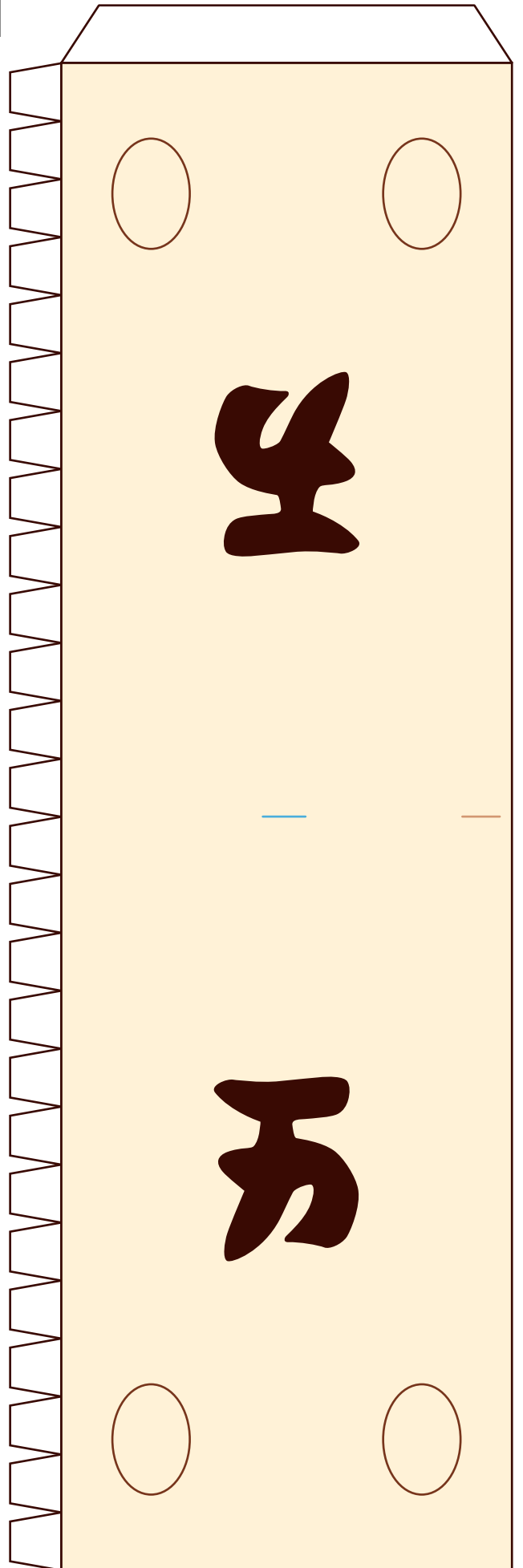


あし



くち

どうたい



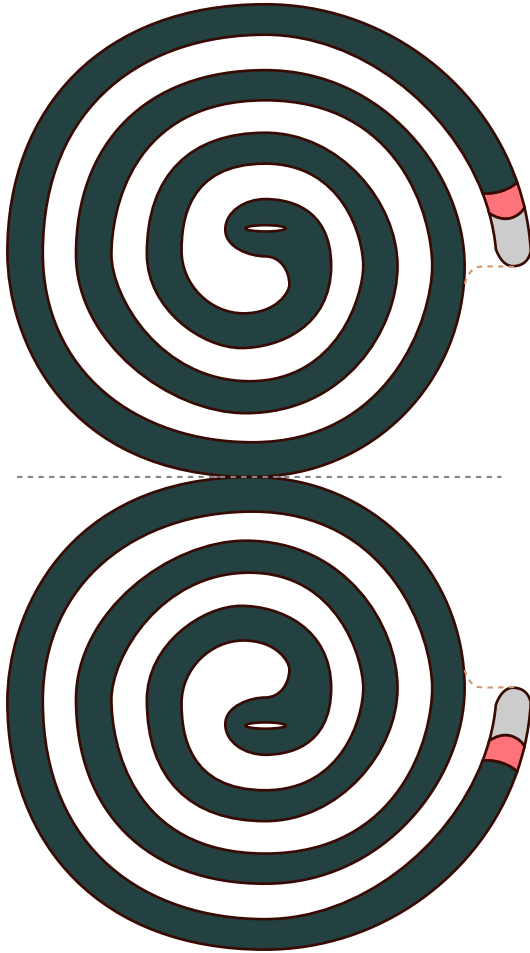
かお



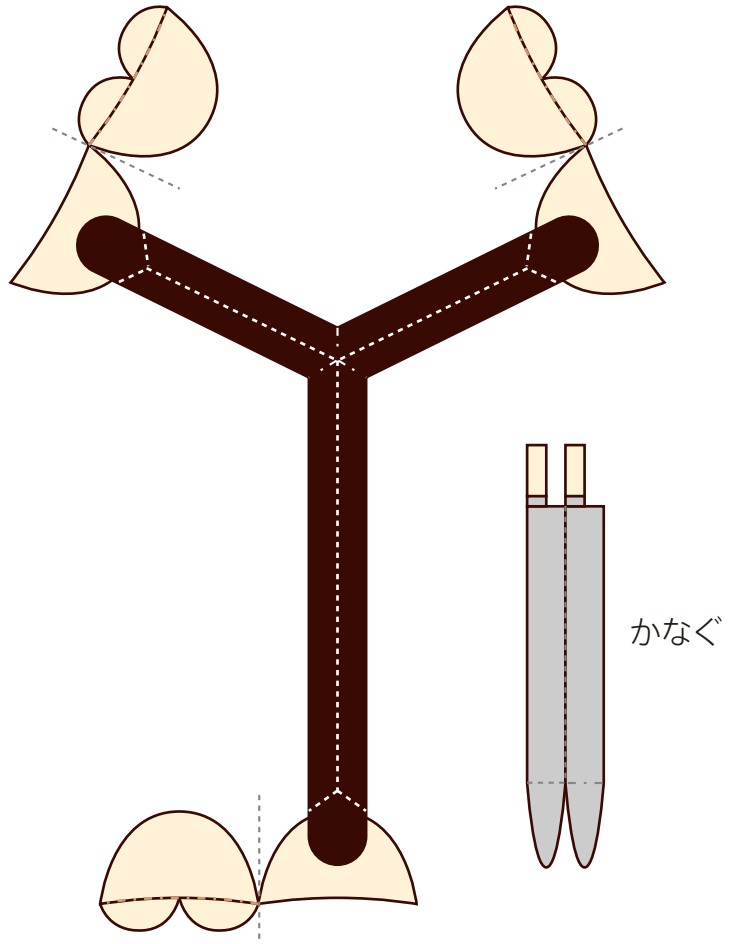
# 五世の蚊やりぶた<sup>か</sup>

やまお  
山折り -----  
たにお  
谷折り -----

蚊とり線香<sup>か せんこう</sup>



取っ手<sup>と て</sup>



**ちゅうい：これは紙ですから、ぜったいに火をつけないでください。**

## 蚊やりぶた豆知識<sup>か まめ ちしき</sup>

◆蚊やりぶたとは・・・蚊(か)とり線香(せんこう)をたく器(うつわ)を「蚊(か)やり」といいます。その中で、ぶたのかたちをしたものを「蚊(か)やりぶた」とよびます。

蚊(か)とり線香(せんこう)は、明治時代(めいじじだい)に、ドイツやアメリカから原料(げんりょう)の除虫菊(じょちゅうぎく)が輸入(ゆにゅう)され、うずまき形(がた)のものが発明(はつめい)されました。

それより前(まえ)の江戸時代(えどじだい)には土管(どかん)のなかで松(まつ)や杉(すぎ)などの葉(は)をいぶして、その煙(けむり)を虫(むし)よけにつかっていたようです。煙(けむり)のでかたを調節(ちょうせつ)するため、土管(どかん)のくちを細(ほそ)くしたりしているうちに、ぶたの形(かたち)になっていったようです。